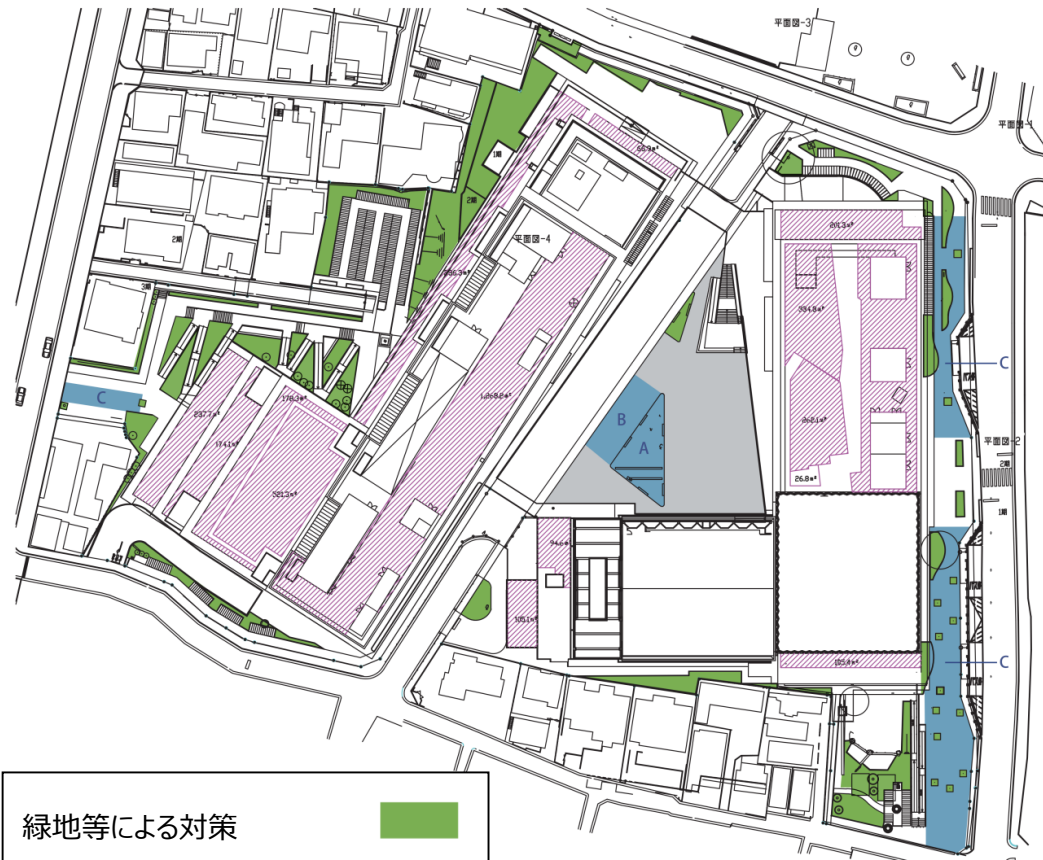


■グリーンインフラへの取組み

(1) 雨水流出抑制施設の設置計画



- 緑地等による対策
- 浸透貯留土壌による対策
- 屋上緑化貯留による対策
- 保水性舗装による対策

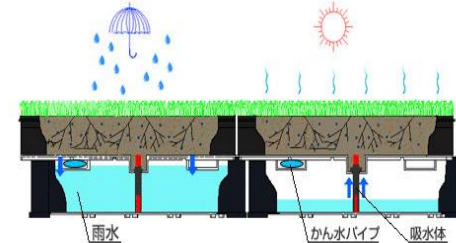
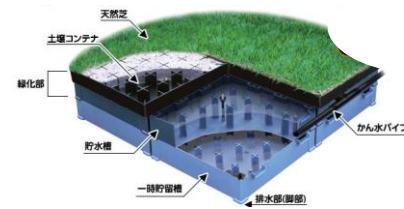
【浸透貯留土壌による蒸散効果】



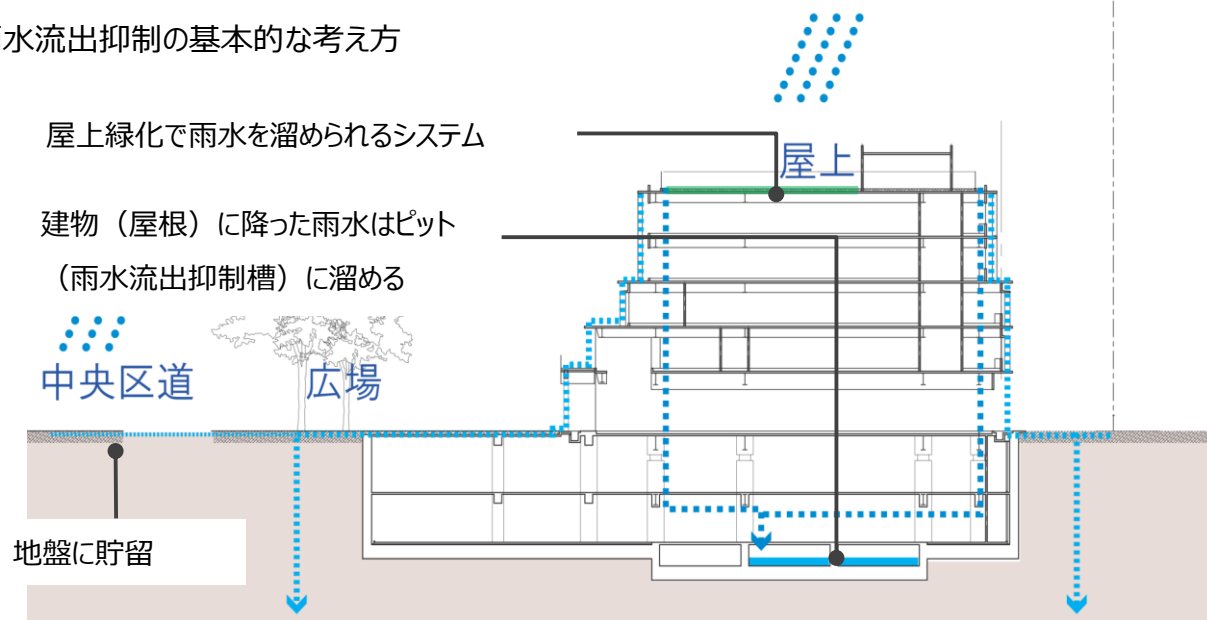
【保水性舗装のイメージ】



【屋上緑化貯留のイメージ】



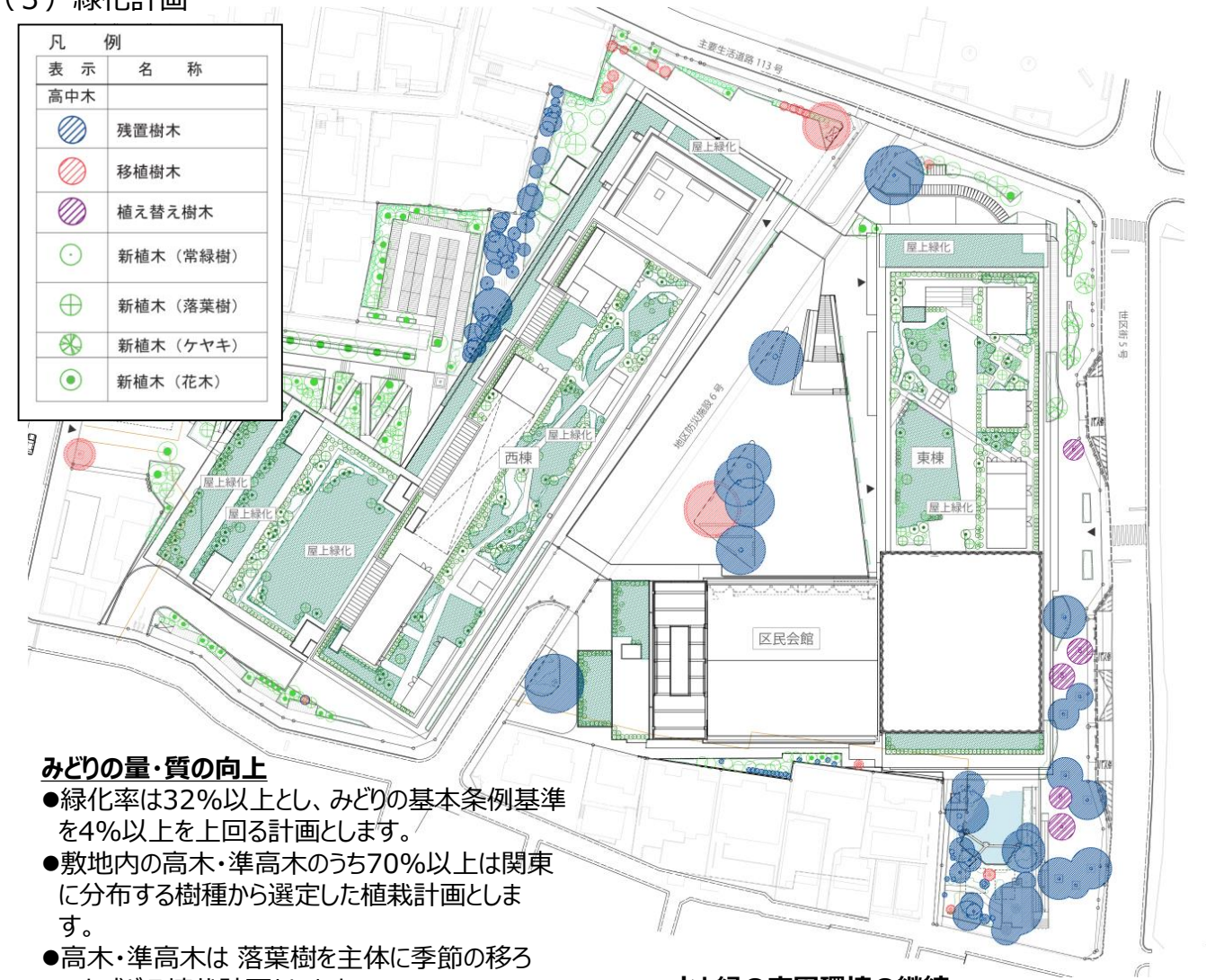
(2) 雨水流出抑制の基本的な考え方



敷地全体で110mm相当の雨量を貯留できる計画とします。

(3) 緑化計画

凡例	表示	名称
高中木	残置樹木	残置樹木
	移植樹木	移植樹木
	植え替え樹木	植え替え樹木
	新植木（常緑樹）	新植木（常緑樹）
	新植木（落葉樹）	新植木（落葉樹）
	新植木（ケヤキ）	新植木（ケヤキ）
	新植木（花木）	新植木（花木）



みどりの量・質の向上

- 緑化率は32%以上とし、みどりの基本条例基準を4%以上を上回る計画とします。
- 敷地内の高木・準高木のうち70%以上は関東に分布する樹種から選定した植栽計画とします。
- 高木・準高木は 落葉樹を主体に季節の移ろいを感じる植栽計画とします。
- 特に花木は開花期の異なる 樹種を導入し、季節毎の魅力付けを行います。

西入口のシンボルとなる緑化空間づくり

- 西側の新たなアプローチとして、季節の花や多様なみどりでいざないます。
- 広場へ続く大階段とスロープの連なり、緑の連続で利用者を誘導します。

生きもの緑化

- ビオトープ、水の流れなどを整備するほか、実のなる 樹種の植栽などによって野鳥や昆虫などが立ち寄る工夫を行い、みどりを活用した学習の場や交流の場を創出します。

水と緑の庭園環境の継続

- 既存の水景（滝の落水と水音、池の水面）と豊かなみどりを活かした庭園空間の保全を行います。
- 地下1階集会室や練習室へのアプローチとして、みどり豊かな雑木林を散策・鑑賞できる空間を演出します。

既存樹木の取扱い

- 良好な既存樹木をできるだけ保存し、計画上支障となる樹木も移植によって新しい庁舎で育成する計画とします。
- ケヤキやサンクンガーデン内の雑木林の景観を構成する樹木、西側住宅地に接する斜面緑地などはできるだけ保存する方向で計画します。

【西棟 西側立面図】 ※壁面緑化のイメージ

